

株式会社松井島根ファクトリー

■事業

アパレル国内回帰に向けた
デジタル技術導入による量産体制構築

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

自動裁断機・自動延反機

品質にこだわり
販路開拓にも意欲

【経営理念】

アパレル製品を通して皆さまの生活を潤いのあるものにする

明るいワンフロアの工場には業務用ミシン100台、特殊ミシン40台がずらりと並び、天井のレールをたどるハンガーシステムが半製品を次の工程に運ぶ。松井島根ファクトリーは、国内有数の大手アパレルメーカーのプロダクトパートナーとして有名ブランド品の主にジャケットやコートを一貫製造している。生産能力は1日ジャケットで250～300着、コートで150着。品質にこだわり、メーカーの要望にもフレキシブルに対応、信頼を築いてきた。1989年4月に広島県福山市に本社を置く株式会社松井の島根工場として出雲市の長浜工業団地に進出。「地元で根ざした企業に」との方針から、2008年9月に分離独立した。従業員の大半は地元採用者が占める。製品の生産性と品質の向上を図り、競争力強化を目指し、今回の設備を導入した。少量生産にも取り組み、新たな販路開拓を進めている。

質、効率化、コスト
国内回帰に向け磨き

衣料品の国内生産量は、1990年代から急速に空洞化が進み、2017年には数量ベースの国産品割合は2.4パーセントまで落ち込んだ。多くの国内メーカーが生産を海外に移転してきたためだ。生産工場は苦しい経営を強いられてきた。一方で、すべてを国内でまかなう「オールジャパン」の言葉で象徴されるように、国内回帰の動きが底流にはある。こうした環境での設備導入は「国内生産がゼロになることはない。製品の質、生産の効率化、コスト削減にさらに磨きを掛けなくてはならない」（今岡淳代表取締役社長）との決意の表れだ。扱う布地は、硬い、柔らかい、厚い、薄い―などさまざま。伸びたり縮んだりもする。17年10月に新しい設備を設置、速度調整などテストを繰り返し、19年4月から生産ラインと結び本格稼働した。



代表取締役社長 今岡 淳



1 導入した自動延反機
2 導入した自動裁断機
3 裁縫作業中の工場内

裁断工程能力アップ
少量多品種にも対応

設備導入で、ボトルネックとなっていた裁断工程の生産能力が50パーセント程度アップ、受注増に対応できる増産体制が整った。柄合わせも自動で行うため、精度、効率ともに大幅に向上した。この結果、熟練工に余力が生まれ、単価の高い少量多品種生産に注力できるようになった。これまで1日5品番が限度だったが、10品番程度までは対応可能という。19年2月には、ブレザー型の付加価値の高い学生服を受注した。営業部門を強化し、今後も少量多品種生産への対応力を活かして、ニーズをすくい上げていくつもりだ。将来的には、コンピューターで自動的に作図を行う3D-CADを導入、メーカーとのパートナーシップを強めていくつもりだ。

■Company Data

株式会社松井島根ファクトリー



松井島根ファクトリーの本社

代表者名：今岡 淳
設立年月日：平成20年年9月1日
資本金：9,500千円
従業員数：90名
主たる業種：繊維工業
売上：270百万円
本社：〒693-0043
島根県出雲市長浜町516番地29
電話：0853-28-2008
FAX：0853-28-1738
URL：http://www.mti-co.jp/f_shimane/index.html